

令和4年度 全国学力・学習状況調査

～石狩市における結果の概要～

石狩市教育委員会

はじめに

令和4年4月19日(火)に実施した令和4年度全国学力・学習状況調査の結果がまとまりましたので、掲載します。本調査は国語，算数・数学，理科の3教科についての学力調査と児童・生徒質問紙及び学校質問紙による学習状況調査が全国一斉に実施されました。なお，理科については，平成24年度調査から，おおむね3年に一度実施されています。

■ 本市の状況

<小学校の学力調査結果>

- 国語・・・正答率は全国・全道平均との比較では，ともにほぼ同様（下位）の結果でした。
昨年度との比較では，全国平均との差がやや縮まりました。
- 算数・・・正答率は全国平均より低く，全道平均との比較ではやや低い結果でした。
昨年度との比較では，全国平均との差が広がりました。
- 理科・・・正答率は全国・全道平均との比較では，ともにやや低い結果でした。
前回（平成30年）との比較では，全国平均との差がやや広がりました。

<中学校の学力調査結果>

- 国語・・・正答率は全国・全道平均との比較では，ともに相当低い結果でした。
昨年度との比較では，全国平均との差が広がりました。
- 数学・・・正答率は全国・全道平均との比較では，ともに相当低い結果でした。
昨年度との比較では，全国平均との差が広がりました。
- 理科・・・正答率は全国・全道平均との比較では，ともに低い結果でした。
前回（平成30年）との比較では，全国平均との差がやや広がりました。

<国語，算数・数学の2教科平均の学力調査結果>

- 小学校・・・2教科平均の正答率が全国平均を上回る学校数は，10校中4校でした。
- 中学校・・・2教科平均の正答率が全国平均を上回る学校数は，7校中2校でした。

<国語，算数・数学，理科の3教科平均の学力調査結果>

- 小学校・・・3教科平均の正答率が全国平均を上回る学校数は，10校中4校でした。
- 中学校・・・3教科平均の正答率が全国平均を上回る学校数は，7校中1校でした。

<児童・生徒質問紙の結果>

- 改善傾向 ①規範意識・自己肯定感等に関わる項目のうち「自分には、よいところがある」では、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」割合は、小中学生ともに全国・全道平均とほぼ同様であり、昨年に比べて増加傾向にあります。
- ②基本的な生活習慣等に関わる項目のうち「就寝・起床時刻」では、「毎日、同じくらいの時刻である」中学生は全国・全道平均を上回り、増加傾向にあります。
- ③学習習慣等に関わる項目で、「計画的な家庭学習」や「普段（月～金曜日）の家庭学習時間を1時間以上する」割合は小学生で全国・全道平均を上回り、増加傾向にあります。
- 課題傾向 ①基本的な生活習慣等に関わる項目のうち「朝食摂取」で、「毎日食べている・どちらかといえば食べている」割合は、小中学生ともに全国・全道平均を下回り、昨年と比べて減少傾向となっています。
- ②基本的な生活習慣等に関わる項目で、「普段（月～金曜日）4時間以上テレビゲーム（コンピューターゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）する」割合は小中学生ともに約3割で、全国・全道平均を上回り、増加傾向にあります。
- ③読書習慣に関わる項目で、「普段（月～金曜日）、30分以上読書する」割合は、小中学生ともに全国・全道を下回り、昨年と比べて減少傾向となっています。

<学校質問紙の結果>

生徒指導等に関わり、「児童・生徒のよい点や可能性を評価（褒めるなど）している」や「自己肯定感・自己有用感を育成する指導に取り組んでいる」ことにより、「授業中の私語が少なく落ち着いている」と回答した学校が全国平均を大きく上回りました。また、全国学力・学習状況調査結果を積極的に活用して、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善していると回答する学校の割合が多いことが分かりました。

これらの結果から、学力向上に関わり、以下のように課題をまとめました。

- ①全道では、中学3年生の国語・理科において平均正答率が全国平均とほぼ同様になり、全国平均との差が小学6年生の時よりも縮まっていますが、本市においてはその差が広がっています。
- ②以前からの本市の課題である国語の「読むこと」領域について、小学6年生・中学3年生ともに全国平均との差が依然として大きい結果でした。
- ③算数・数学では、「思考・判断・表現」及び「記述式」の問題において、全国平均との差が相当大きくなっています。
- ④各学年で学習した既習事項が定着していない傾向が見られます。
- ⑤伸びしろ層（平均正答率30%を下回る層）の割合が多い傾向が見られます。（小学校は算数、中学校は国語・数学・理科）

- ⑥問題から提示される多くの情報（文章やグラフ等の資料）から必要な情報を読み取ったり、活用したりすることが不得手である傾向が見られます。
- ⑦小学6年生においては、平日（月～金）1時間以上家庭学習している割合は、約7割で全国平均を上回っていますが、中学3年生は約6割と全国平均を大きく下回っています。
- ⑧平日（月～金）のスクリーンタイム（テレビゲームや動画等の視聴時間）が4時間以上である割合は、小学6年生・中学3年生ともに全国平均を大きく上回っています。

石狩市教育委員会は、調査結果が児童・生徒の身に付けるべき学力の特定の一部であることや学校における教育活動の一側面であることを踏まえつつも、学力面で依然として全国平均に届いていない状況にあることや調査結果で明らかになった実態や課題を真摯に受け止め、今後各校と連携しながら、以下のように改善に取り組んでまいります。

具体的な改善策

- ①学習指導要領の内容にある「知識・技能」を定着させる「わかる・できる授業」の徹底に取り組みます。
 - ア. 1単位時間の授業の中で、振り返り・適用問題による習熟場面の確保
 - イ. 全員が「わかる・できる」を実感させる働きかけ（確認する・ほめるなど）
 - ウ. 「伸びしろ層・中間層・上位層」の学力向上を図るため、少人数習熟度別指導等を活用
- ②「対話を重視した授業」の徹底に取り組みます。
 - ア. 「思考・判断・表現」する力をアウトプット（発信）させる授業づくり
 - イ. 一人一台端末（タブレット）を活用した「協働的な学び」の場面を確保
 - ウ. 筋道を立てて自分の考えを書いたり、発表したり、話し合ったりする学習スタイル
- ③国語科「読むこと」領域における読解力の向上に取り組みます。
 - ア. 単元の指導計画に、目的を明確にした「言語活動」の適切な設定
 - イ. 読解したことを基に「書く、発表する、作品に残すなど」のアウトプット（発信）
- ④学校の方針・取組に基づいた朝学習・補充学習の充実に取り組みます。
 - ア. 結果分析による課題解決する「取組内容」や「時間設定」、点検評価の見直し
 - イ. AIドリル等を活用した「個別最適な学び」による既習事項の確実な定着
 - ウ. 「チャレンジテスト」「過去問題」等の有効活用や繰り返し活用
- ⑤読書活動を工夫し、読書環境の充実に取り組みます。
- ⑥適度なスクリーンタイムと家庭学習の習慣化に向け、根気強い指導と啓発に取り組みます。（生活リズムチェックシート等の活用を含みます）
- ⑦学習指導要領の趣旨や学習保障に向けたカリキュラム・マネジメント（教育課程の管理）に取り組みます。
- ⑧学力保障及び小中連携や働き方改革の推進の観点から、教科担任制や乗り入れ授業等の工夫に取り組みます。

子どもたちの学力向上のためには、市民の皆様と成果と課題を共有し、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の活用と共に、学校・家庭・地域が一体となって取り組むことが重要であると考えます。今後とも、市民の皆様のご理解・ご協力をお願い申し上げます。

全国学力・学習状況調査の目的及び実施状況

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 上記の取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2. 調査の対象学年

小学校第6学年，中学校第3学年

3. 調査の内容

- (1) 教科に関する調査【国語，算数・数学，理科】
- (2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査（児童・生徒及び学校に対する調査）

4. 調査の方式

平成19年度～21年度：悉皆調査

平成22年度～25年度：抽出調査及び希望利用方式（石狩市は全校が実施）

（但し23年度は東日本大震災のため希望校のみの実施で石狩市は全校が実施）

平成26年度以降：悉皆調査（但し令和2年度は新型コロナウイルス感染症流行のため中止）

※調査問題は、「国立教育政策研究所」のホームページで見ることができます。

「国立教育政策研究所」を検索後、「全国学力・学習状況調査」をクリック

5. 調査実施日 令和4年 4月19日（火）

6. 調査実施学校数及び児童生徒数

小学校及び義務教育学校（前期課程）： 10校で実施 459名

中学校及び義務教育学校（後期課程）： 7校で実施 449名